



令和2年の始まりは、未知のウイルスとの闘いになりました。1年延期となった東京オリンピック・パラリンピックまでに、我々はこのウイルスに勝利しているのでしょうか・・・「想定外」という言葉は嫌いな言葉の一つですが、使わざるを得ないこともあるのだと感じました。しかし、災害対策と同じように、過去の感染症対策から得た教訓を全てに活かすことができれば、被害を最小限に食い止めることができるのではないかと願う毎日です。

2019年 活動報告

- 3月3日(日) JUMPワークショップ開催
「今、あらためて考える訓練の重要性」
特別講演: 横見由貴夫先生(岡山県警察歯科医)
「岡山県警察歯科医会と後方支援活動について」
- 3月17日(日) 第2回広島大学セミナー・机上訓練
主催: 広島大学死因究明教育研究センター
会場: 広島大学歯学部大講義室
第2部
講演: 都築民幸先生(日本歯科大学)
「災害時の歯科的個人識別—スクリーニングとマッチングを峻別する—」
実習指導: 岡広子氏、大林氏、勝村氏、熊谷氏、斉藤氏
「インターポールの死後記録を利用しての机上訓練」
- 3月18日(月) 第24回日本災害医学会総会・学術集会(鳥取)
: 熊谷氏発表
「International Congress in Mass Disaster への参加経験と
これからの日本災害対応について」
- 5月13日(月)～14日(火) INTERPOL-DVI SWG参加(シンガポール)
: 熊谷氏、岡広子氏参加
Forensic Odontology Sub-Working Group on DVI – INTERPOL
30th INTERPOL Disaster Victim Identification (DVI) Conference

2019年 活動報告

- 7月19日(金)～20日(土) 第38回日本歯科医学教育学会(福岡)
学会発表:岡広子氏、熊谷氏、勝村氏
「多職種連携のDVI机上訓練の実施と歯科系参加者の評価」
- 8月10日(土) 岐阜大学 医学教育開発研究センター(MEDC)主催
第73回医学教育セミナーとワークショップ(愛知学院大)
講演:岡広子氏、熊谷氏、齊藤氏、勝村氏
「災害時に向けた医学・歯学教育を考えよう」
- 10月21日(月) JUMP企画机上訓練(千葉大学附属法医学教育研究センター共催)
「多職種連携によるDVI机上訓練」
会場:千葉大学附属図書館 亥鼻分館3階 ライブラリーホール
講演・訓練指導:勝村氏、齊藤氏



- 12月13日(金) 令和元年東北管区広域緊急援助隊北部3県実動訓練
会場:岩手県警察学校教場、体育館
訓練指導:熊谷氏、参加:岡広子氏、齊藤氏



2020年1月～3月 活動報告

- 1月12日(日): JUMPシンポジウム
「大規模災害における多角的視点を養う～東日本震災から9年目を迎えて～」
会場: 鶴見大学記念館ホール
共催: 鶴見大学先制医療研究センター
＜シンポジストである、秋富氏、金城氏、佐藤氏の講演内容は好評で、ディスカッションでは質問票に対応して行われたのも正解であった。懇親会も盛会であった。課題としては、参加者の人数かな・・・＞



- 1月15日(水)～1月17日(金) タイ視察: 勝村氏、齊藤氏
(三菱財団の助成金事業の一部により実施)
 - ① チェンマイ大学法医学教室視察
※法医学セミナー「Mass Fatality Management Lessons From The Great Tsunami in Thailand And Japan」にて、齊藤氏発表。
 - ② Institute of Forensic Medicine, Thai Police General Hospital
(警察病院法医学研究所) 視察
 - ③ Central Institute of Forensic Science-CIFS
(法務省法科学中央研究所) 視察

- 3月28日(土) <放送> 19:00～20:00
4月24日(金) <再放送> 21:00～22:00
:BS12トゥエルビ ドキュメンタリー番組
「人間の履歴書～歯が語る生きた証～」
JUMPのミーティングやシンポジウムなどの取り組みが報道されました！



寄稿

今回から、JUMPIにご縁のある方々に寄稿していただくことにいたしました。第1回目は、東日本大震災をテーマとするドキュメンタリー番組を制作された佐々岡沙樹様をお願いいたしました！



鈴木様と佐々岡様

「BS12スペシャルについて」

2020年3月28日記

佐々岡沙樹

■BS12スペシャル「人間の履歴書—歯が語る 生きた証—」を制作して

この番組制作のきっかけは、宮城県警に震災に特化した「身元不明・行方不明者捜査班」があることを1年半前に知ったことです。当時、宮城県には10体の身元不明遺体がありました。年月の経過に伴い捜査も難航する中、地道に捜査を続ける捜査班の方たちの思いを番組で伝えたいと思いました。

一方で、今後の災害を考えた時に、どの地域でも宮城県警のように地道な捜査を10年近く続けることができるのか？ここまで警察が苦勞せずに特定できるようにできないのだろうか？と思い、別の視点から災害時の身元確認について取材をし直そうと考えました。いろいろ調べるうちに、歯科所見が身元確認において非常に重要であることを知り、千葉大学法医学教室の斉藤久子先生に連絡をさせて頂きました。日本は身元確認に関して優れているのかと想像していたため、斉藤先生や勝村先生から海外と日本の違いを教えてください非常に驚きました。また、JUMPの方たちがいかに熱心にこの問題に取り組まれているかを番組で伝えたいと思い、今後の大規模災害時の身元確認について、「歯」に焦点を当てて取材することに決めました。

今回JUMPの皆様を取材させて頂いて一番驚いたのは、“変わらない熱意”です。思いを変化させないことは簡単なように思えて、実は最も難しいことだと思えます。「(現在女性限定の)JUMPに入りたい！」という男性医師の方もいらっしゃるなど、JUMPの皆様の“変わらない熱意”こそが、立場関係なく周りの人たちを巻き込んで、改革に繋がっていくのだと感じました。結局「人」を動かすのは「人」なんだと強く思いました。今年4月に「死因究明等推進基本法」が施行され、厚生労働省で本部が立ち上がり、ようやく日本もスタートラインに立つのだと思えますが、JUMPの皆様が長年訴えてこられたことは、今後必ず国や自治体の取り組み、大学での教育などに生かされると信じております。

■ドキュメンタリーの特番枠「BS12スペシャル」立ち上げについて

私は大学時代に映画研究会で作品制作をしていましたが、大学院に進学して知的財産法を専攻していました。しかし、法務の仕事よりも、やはり制作の現場にいきたいと思い、ドキュメンタリーを得意とする制作会社でディレクターの道に入りました。報道番組のドキュメンタリーを制作する中で、地上波の放送は社会に大きな影響を与える一方で、地上波ではできないことも多くあると感じ、縁あって現在のBS12 トウエルビに転職しました。そして、数年前、前職時代からの師匠(鈴木さん)が、自身も癌を患いながらも人生最後の仕事として、核実験による被ばくの実態を取材していることを知り、何とか最後の作品を放送したいと思い、1年ほど社内交渉をしてドキュメンタリーの特番枠を立ち上げました。ドキュメンタリーは、民放局では数字も営業も広報も難しい三重苦のジャンルのため、弊社でこの枠を立ち上げることができたのは正直奇跡だと思っています。しかし、この枠を立ち上げることが出来なかったら、今回JUMPの皆様にも出会うことはできなかったもので、枠立ち上げのきっかけをくれた今は亡き師匠にも、後押ししてくれた社内の人たちにも本当に感謝しています。

今後は、10年以上抱えているテーマの死刑制度や触法障害者の問題もいつか番組にしたいと思っています。また、ドキュメンタリーの形では取材したことを出せない場合もあるため、題材によってはドラマの形なども今後検討したいと思っています。

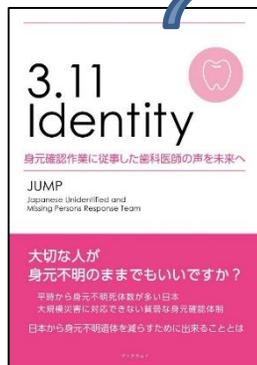
お知らせ

JUMP著書

「3.11 Identity」

タイ語へ

翻訳される！



BS12佐々岡様のご紹介によりタイのシーナカリンウィロート大学人文学部東洋言語学科日本語専攻専任講師であるパットオン・ピパタナクル先生と16名の学生さんのご厚意により、JUMP著書「3.11 Identity」の一部がタイ語へ翻訳されました。この本は、Japan Foundationとタイの教育機関に配布されることで、大変有り難いお話です。

テレワークって...

最近、よく聞く、もしくは聞きなれた「テレワーク」とは、実はどういう意味なんだろうと考えてしてみました。調べてみますと、「テレワーク」とは、「離れた場所で(テレ:Tele)、ワーク(work)する」という造語らしいです。ICT(情報通信技術)を活用すれば、時間や場所にとらわれない働き方ができますので、出産、育児、介護などの理由で就労が困難な人や、病気、ケガなどにより通勤が困難な人でも、働くことが可能となります。「テレワーク」は、フリーランスの人だけでなく、会社が「テレワーク制度」を導入していれば、従業員一人一人に合わせた働き方が出来るようになりますが、そのスタイルには、以下の3パターンがあるようです。

- 在宅勤務型: 自宅で会社とパソコン等で連絡を取りながら仕事を行うスタイル
- モバイルワーク型: 顧客先や移動中にパソコン等を使い仕事をするスタイル
- サテライトオフィス勤務型: 勤務先以外のオフィススペース(レンタルオフィスやコワーキングスペースなどの施設)でパソコン等を利用し仕事を行うスタイル

無料のWeb会議ツール

新型コロナ対策として「テレワーク」が推奨されるなか、「Web会議」が脚光を浴び始めています。このWeb会議、無料のツールでどこまでできるのか、初心者ではありますが、以下の4つについて簡単にご紹介いたします。

- Zoom: テレワークの広がりとともに一気に知名度を上げたツール
接続人数100名(3名以上は最長40分まで)、ファイル及び画面共有可能、録画機能有
無料版でもかなりの機能を備えていて、初心者でも使いやすいが、セキュリティに問題有り
- Microsoft Teams: Microsoft社のOffice 365との連携に優れたツール
接続人数 組織あたり300名、ファイル及び画面共有可能、録画機能無
- Skype Meet Now: 2020年4月開始の新サービスで、知名度は低いが、独特な特徴を持つツール
アカウント登録不要、接続人数25名、ファイル及び画面共有可能、録画機能有(30日間限定)
- Google Hangouts: Googleアカウントを持っていればすぐに使えるツール
接続人数10名、ファイル(Googleドキュメント)及び画面共有可能、録画機能無
Gmailを持っていることが条件だが、「Googleドキュメント」や「Googleカレンダー」との連携に長けているので、日常的に利用している人にはおすすり。

その他には、Cisco Webex Meetings, Whereby, BizMee, Facebook Messenger、LINEなどもあります。来年春までには、JUMPもこれらのツールを使いこなして、サポーターの皆様とのシンポジウム、研修会、訓練、懇談会など、開催できていければいいなあと思っております！

今後の
活動予定

※JUMP主催 災害実働訓練開催 日程未定

※一般市民向けの公開講座:2021年2~3月
「東日本大震災から10年を迎えて(仮)」

※学会発表

- ・第18回警察歯科医会全国大会
- ・日本法歯科医学会第14回学術大会

獲得
民間助成金

- ・2018年度 韓昌祐・哲文化財団 代表者:熊谷氏 100.5万円
2019年4月~2021年3月
- ・第50回(2019年度)三菱財団 代表者:斉藤氏 170万円
2019年10月~2020年9月

その他、関連行事のお知らせ

- 2020年10月3日(土)~4日(日) 日本法歯科医学会第14回学術大会(岩手)
大会長:熊谷章子氏(岩手医科大学法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野)
会場:岩手アイーナ いわて県民情報交流センター(盛岡市)
- 2020年12月5日(土) (第104次日本法医学会学術全国集会後翌日)
「INTERPOL DVIプロトコルによる災害犠牲者個人識別ワークショップ」
主催:岩手医科大学法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野
会場:大阪市内
参加費:15,000円(同時通訳、昼食含)
- 2021年2月6日(土) 第18回警察歯科医会全国大会(鹿児島)
主催:鹿児島県歯科医師会
会場:SHIROYAMA HOTEL kagoshima

2019年4月から「働き方改革法案」が施行されましたが、大学勤務の私にはピンとくるものではありませんでした。しかし、このコロナ禍で、緊急事態宣言が発令され、「これからはテレワーク、在宅勤務」と言われ、自分自身で働き方を変えざるを得ない状況になりました。自宅での仕事は、気が散りますし、腰も痛くなるし、辛いことも多かったのですが、1カ月近く続けていますと、それなりに慣れてきました。家族と過ごす時間も増えました。「転んでもただでは起きない」をモットーに、この状況を乗り越えて、JUMP結成時の目標のために粛々と活動していくのみと考えております。

今後も皆様のご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

JUMP代表:斉藤久子